

公益財団法人横須賀芸術文化財団
平成 24 年度第 3 回理事会
議 事 録

- 1 開催日時 平成 24 年 6 月 11 日（月）午後 1 時 30 分から午後 3 時まで
- 2 開催場所 横須賀市産業交流プラザ 第 1 会議室
- 3 出席者 理事総数 6 名
出席理事 5 名（代表理事・理事長を含む。）
原田恵次（常務理事）、齋藤道子、田村勝弘、渡辺晴夫
監事総数 2 名
出席監事 1 名
大西浩信

4 議 長 小沢一彦（代表理事・理事長）

5 決議及び承認事項

議案第 5 号 平成 23 年度（6－3 月期）事業報告及び決算（案）について

議案第 6 号 定時評議員会の招集について

6 報告事項

- ・平成 24 年 3 月 1 日以降の職務の執行状況について
- ・「第 4 回野島稔・よこすかピアノコンクール」の開催結果について
- ・次期指定管理者公募スケジュール概要について

7 議事の経過概要及びその結果

定刻に代表理事が議長席に着き、天沼事業部長が開会を宣言。

定款第 33 条第 1 項の規定に基づき、小沢理事長を議長に選出。

定款第 33 条第 1 項の規定に基づき議長に選出された小沢理事長が、定款第 34 条に規定する定足数を満たしていることを確認し、本理事会が有効に成立した旨を宣言。

併せて、定款第 37 条第 2 項に基づき、小沢理事長及び大西監事が議事録署名人に指名され、議案の審議に入った。

(1) 議案第 5 号 平成 23 年度（6－3 月期）事業報告及び決算（案）について

小沢理事長が、評議員会へ提出する原案を審議すべく議案を上程し、柳田管理課長が詳細を説明。

平成 23 年度は分かれ決算となったため、事業報告（案）及び決算（案）について、事業年度と通年の実績をそれぞれ比較し説明。

説明によると、平成 23 年 6 月 1 日付け公益財団法人へ移行したため、今期は移行初年度であった。東日本大震災に伴う計画停電、原発事故による風評被害等の影響から、事業計画の実施に際し常に不安要素を伴う状況にありながら、運営経費の節減等を励行し、事業展開に係る財源の安定的確保に努めた。自主公演事業

については、平成 22 年度からの公演延期、招聘公演のキャンセル等、震災の影響が大きく生じたが、積極的に販路拡大に取り組むなどして、市民に多くの舞台芸術の鑑賞機会を提供した。育成事業については、劇場合唱団の活動、若手演奏家の育成支援等を通じ、市民が主体的に文化活動に参加できる環境を提供し貢献した。貸館事業については、情報提供及び営業活動の強化により利用促進を図り、利用者のニーズの把握、ホスピタリティの向上に取り組み、顧客満足度の向上及び充実したサービスの提供に努めた。その他事業全般において、横須賀市の文化施策との連携を図り、常に地域に親しまれる劇場として、地域の活性化及び芸術文化の振興に寄与したとの内容であった。

決算額については、適正な公益目的事業比率を確保し、かつ昨年度と比べ約 3,100 万円の資金収支改善を達成するという良好な結果となったが、次期指定管理者は公募選定となるため、経費圧縮を更に推進し、より効率的な運営に努めていくとの内容であった。

次に、小沢理事長の求めに応じ監査報告があり、理事の職務の執行について監査した結果、法令及び定款に従い法人の状況を正しく示していること、理事の職務の執行に関する不正の行為又は法令若しくは定款に違反する重大な事実は認められないこと、内部管理体制の整備に関する理事会決議及びその体制下の理事の職務の執行が相当であること、計算書類及びその附属明細書並びに財産目録は適正に表示していることが報告された。

本議案に関連し、次の質疑応答があった。

- ・小沢理事長：震災の影響もあった中、今期は大幅な収支改善を達成した。
- ・大西監事：震災後の短期間において事業計画及び予算を再編するなど、状況に順応し事業を展開したことは評価に値する。
- ・小沢理事長：震災の影響は、どのような形で表れたか。
- ・天沼部長：主催、貸館を問わず、公演延期が生じた。また、海外から招聘する予定であった主催公演が原発事故の影響で中止となり、目玉公演を 1 公演失う結果となった。
- ・田村理事：施設面への影響はなくとも、招聘公演が中止となった会館が少なくない。当面、その状況は続くことを想定しておく必要がある。

以上、小沢議長が諮った結果、全員一致をもって原案のとおり承認された。

(2) 議案第 6 号 定時評議員会の招集について

小沢理事長が定時評議員会を次のとおり招集したい旨の議案を上程し、柳田管理課長が詳細を説明。

- ・用件 平成 24 年度第 2 回評議員会
- ・日時 平成 24 年 6 月 21 日（木）午前 10 時から
- ・場所 横須賀芸術劇場 大劇場 楽屋 8
- ・目的である事項

(1) 議案審議 ・平成 23 年度（6－3 月期）事業報告及び決算（案）に

ついて

(2) その他報告事項

理事から質疑がなされなかったことから、小沢理事長が諮った結果、出席理事全員異議なくこれを可決した。

(3) 報告事項

- ・平成23年4月1日以降の職務の執行状況について

小沢理事長、木村副理事長、原田常務理事に代わり、大倉事業課長が報告。

横須賀市関係では、芸術劇場指定管理業務に係る月次及び年次報告を行い、特段の指摘事項もなく評価を受けたこと、監査法人による包括外部監査においても特段の問題事項が挙げられなかったこと、市内外の企業に対し事業協賛の依頼を行ったこと、更には、次期指定管選定に係る申請及び横須賀市決算議会に向けた準備を行うことなどが報告された。

- ・「第4回野島稔・よこすかピアノコンクール」の開催結果について
天沼事業部長が報告。

同コンクールを平成24年4月23日から29日まで(うち5日間)開催した。応募者73名のうち71名が予選に進出し、本選進出者8名の中から入賞者3名を選出した。入賞者には、副賞として、財団の主催公演等に出演する機会を提供する。野島稔審査委員長からは、応募者数は前回と比べ減少したが、より高いレベルを目指すピアニストが本コンクールに本気で参加していることの表れであること、今回の審査は激戦であったとの評価をいただいた。今後も、全国有数のコンクールとしての確固たる地位を築いていきたい。

本報告内容に関連し、次の質疑応答があった。

- ・小沢理事長：副賞は、若いピアニストにとって、非常に貴重な経験になるだろう。
- ・次期指定管理者公募スケジュールの概要について

芦川管理課主任が報告。

芸術劇場次期指定管理者の公募選定の決定を受け、財団として、万全な体制において指定を受けるべく準備を進めていく旨説明。

本報告内容に関連し、次の質疑応答があった。

- ・小沢理事長：民間企業の参入が予想されるが、どの程度まで育成事業等が評価されるか。この街、この地域、この劇場のために何ができるか。指定獲得に向け、知恵を出し合い、一丸となり準備を進めていく。
- ・天沼事業部長：次期指定期間は8年間となる。過去の実績に加え、その8年間においてどのような効果を生むことができるか。従来の手法には固執しない。役員の皆様方にも、是非ご協力をお願いしたい。

以上をもって、議事全部の審議及び報告が終了したので、午後3時、議長が閉会を申し解散した。

上記議事の経過の要領及びその結果を明確にするため、出席した代表理事及び監事が記名押印する。

平成 24 年 6 月 30 日

公益財団法人横須賀芸術文化財団

議 長
代表理事（理事長）

小 沢 一 彦

(代表者印)



監 事

大 西 浩 信

印

